

●木津川流域クリーン大作戦

19日が雨のため延期となって26日に実行されました。里山の会はかねての通り山城大橋東詰めを責任者 森島副理事長が当たり、合計16名の参加者でゴミ拾いを行いました。今回は城陽市の職員3名、そして南都銀行から1名の参加があり、大部分が大人の集団だったので細かいところまでをしなくても、自主的に行動が行われました。集めたゴミ袋は16個にもなり、用意した袋が足りなくなるのではないかと危惧しました。ここは信号待ちの多いところでしたので橋のたもとにはこれまでになく（3年分）ゴミがたまっていて大勢の人手が集中して綺麗になりました。この運動もできるだけ継続して実行することが必要だと実感させられました。またかなりゴミ捨てマナーの大切さを訴える看板や標識が設置されているのですが、作り変えるべきではないかと思いました。



●同志社大学からボランティアの登録要請届く

2022年度は同志社大学からボランティア活動で大変ご援助をいただきました。例えば里山農園付近で実のなる木の植樹を行っていただいたり、ともに草刈り作業を体験したり、サッカー部のボランティアが12月の真冬の気候の中、30数名の参加で私たちが数年間手を付けられなかった里山農園の白土山への周遊通路を開通させていただく等すごい貢献をいただきました。これからも里山農園付近の一層の整備作業や木津川の希少種植生調査管理業務のお手伝いをいただけたら大変ありがたいことを希望しています。そのための団体登録をさせていただきました。これを機に同志社大学が地域への貢献に共に頑張りたいと思って登録を行いました。

●京の公共人材大賞の応募が届く

京都府南丹市八木町に事務所がある実行委員会から第10回京の公共人材大賞の推薦がおられないとのことのお誘いをいただきました。これは京都府内において、産学公民がそれぞれのセクターの壁やあらゆるハードルを乗り越え、自らの地域の課題解決のために活躍する人材を表彰されるものです。事務局会議でやましろ里山の会からふさわしいお方を推薦したいがと提案すると「結成当初からの活動家（植物関係）として、京田辺市に限らず広く山城一帯で活躍されている湯川幸子さんを」との声があって、全会一致で推薦することになりました。お知らせしておきます。

●後継者問題について

NPOが全国で結成され始めて20年がたち、後継者問題などの課題が大きくなって、2018年以降全国的にNPOの減少続くとのことが最初に報告されました。私たちやましろ里山の会も結成当初の「あの花なあに」とした植物中心の活動から昆虫や魚、そして緩やかですが子育て分野などに活動の範囲が広がってきました。そして中心メンバーの多くが高齢者になってしまいまして、次世代へのバトンタッチが大きな課題になって久しいもので、努力を重ねてきましたが大きな課題になっています。まさに危機的状況に直面しています。この都度京都府でZOOM会議を含めての会議が開催されました。そのメモを事務局会議で報告しました。強調されたのは代表者のあるべき資

質（ミッション・ビジョンの策定、予算計画の策定、理念で実行する力、周囲との連携を維持させること）でした。なかなか問題が多く一度に多く解決できませんが、頭に記憶して、少しずつ努力することかなと受け止めました。そして代表者は①組織の顔である。②現場のリーダーである。③事務処理者である。④熟練した技術者である。が強く心に残りました。

●里山の会のパソコン これまでの受信したメールが一定期間ですべて消去される事態が発生。

長年使用してきた里山の会のパソコンは、たびたび記憶装置が働かず消滅する事故が発生居たので6月に新型に入れ替えました。ところがメール受信の記録が一定の期間に消滅する機能になってここでも記録がなくなることに気づきました。これまで通りの機能になっていないことになってしまっていたので、訂正修理をお願いしました。これまではこういったことは長年にわたり補修しているけれど初めての作業だとのことで、相当工夫していただきました。これで記憶装置が働き出すことでしょうか。またUSBメモリーも2年程度で機能が落ちてくると認識されておくことが必要だと指導いただきました。

●里山展が開かれる 3月7日から12日まで

京田辺市立中央図書館ギャラリーで里山展を開催します。

●炭焼き体験 3月3日から

今回は旧打田薪炭組合員であった植西さんに当時の炭焼き技術を直接指導いただける機会をお願いしました。里山の会では昨年は空気の供給遮断の時期調整の失敗からすべて灰になってしまいましたので、植西様から直接指導、煙の色の変化などのノウハウを学ばせていただきます。経験を学ぶ絶好のチャンスですので、関心をお持ちの皆さんはご集合下さい。

原木の運搬 3月3日から 草内の里山倉庫前集合 軽トラで往復

炭焼き窯事前温め これまでの（前回の失敗）経験から1年間の湿気を取り除けられたら試行

窯詰め 3月11日 9:30 午前中の作業

着火作業 3月12日 8:00 空気調整 16:00 窯への空気遮断

●小川芳也さんの松江通信 No. 22

花崗岩という脆く崩れやすい地質に加えて、製鉄のための砂鉄採取が土砂流出の原因であった斐伊川でした。土砂流出により天井川となった斐伊川では、たびたび洪水はん濫が発生して農民や農地に被害を与えたようです。松江藩（江戸時代）は1613年から1635年まで鉄穴流しを禁止（参考：雲南市HPより）しましたが、たたら製鉄の鉄師とたたら製鉄関係で副業していた農民の生活が困窮したことにより1637年には鉄穴流しが再び解禁されています。また、1630年代の洪水で出雲平野に流れてきた斐伊川は東向きに流れを変えて宍道湖や大橋川・中海・日本海と繋がる現在の流域に変貌しました（それ以前は、出雲平野を西に流れ、神門水海（かむどのうみ）（現在の神西湖（じんざいこ）の前身）に注いでいた）。この東流以降もたびたび洪水はん濫を繰り返していたため、出雲平野（簸川平野：ひかわへいや）では40年～60年ごとに人工的に川を移し替える「川違え：かわたがえ」を行い、洪水はん濫による被害を減少させるとともに陸地造成し流出土砂に含まれる栄養分を利用して稲作を行っていたようです。

この続きは次回に・・・

●太田敏之さんの小笠原旅行日記 追記②（最終回）

私の旅行記を読んで頂いてる方から、どんな宿に泊まり、どんな料理を食べていたのかという質問をいただきましたので、追記したいと思います。

私は「おがさわら丸」の往復と3泊6食付きの宿と一緒に「おが丸パック」というの使いました。宿は20種類ほどあり、1人1室だと8万円程度から天皇陛下が泊まったホテル、15万円位まであります。おがさわら丸の2等寝台往復(片道26,930円)付きですから、だいたいわかると思います。私が泊まったところは、別にしっかり考えて選んだのではなく、空いている所でエィヤーと選んだのですが、9万円でダブルベット2つの4人部屋に一人で泊まりました。隣の部屋のもう一人の客は、埼玉からダイビングをするために来た人で、1人でシングルベッド4つの部屋に一人でした。風呂トイレは共用の古いゲストハウスのようなところです。主人と奥さんの2人でやっているところですが、奥さんは本土に帰っていてご主人1人と、1日だけ若い女の子が朝食と掃除に来ていました。ですから食事は確かイカとカンパチの刺身が毎夕食に出て、後は男の手料理がドバッと出て、食べ切れないというようなところです。天皇陛下の泊まったホテルだとフランス料理のようです。魚料理を売りにしている宿もあるようですが、それほど期待できないのではないかと思います。最後の日の昼に島に一軒の寿司屋に行きましたが、私的にはそれほどでもありませんでした。長〇郎のほうがおいしいです。

以上、お読みいただきありがとうございました。